



第38号



男性のみなさん、 家族に**夕****食**を 作れますか？

小学6年生までの子どもをもつお父さんを対象に、男性料理教室を行いました。

「興味はあるけれど、きっかけがない」、「料理はちょっと…」。そんなお父さんのためのきっかけづくりやスキルアップ、また地域のみなさんと交流する機会として開催しました。

ご協力いただいたコミュニティ、食生活改善推進員のみなさん、ありがとうございました。参加して下さったみなさん、またご家庭でも作ってみてくださいね。



男性料理教室

開催コミュニティ

- 7/9 飯野コミュニティ
- 7/29 富熊コミュニティ
- 8/26 郡家コミュニティ
- 8/27 飯山南コミュニティ

《今後開催予定》

- 10/22 飯山北コミュニティ

●参加男性の声

- ・子どもと一緒に作ることができ、楽しかった。喜んでくれたので、またやりたい。
- ・カレーやチャーハンなど簡単なものはよく作っている。今度、餃子も作ってみたい。



●地域の方の声

- ・コミュニティにあまり来ることのない子育て世代の男性に参加してもらえてよかった。
- ・私たちが子育てをしていた頃と違って、最近のお父さんは普段から子どもの面倒をよく見ているなど思った。



MENU

- ごはん
- 餃子
- ナムル
- 卵スープ
- フルーツポンチ



パパだって子育てしないともったいない!!

仕事で毎日忙しいお父さん。家事や育児をしようと思っても、「仕事で時間がとれないから…」「妻にやらなくていいと言われる…」そんなお父さんも多いのではないのでしょうか。でも実は、家事や育児をするといいいことがいっぱいあります!! お父さんもしないともったいないですよ。



丸亀市の現状

丸亀市の男性は、どのくらい家事や育児をしているのでしょうか。

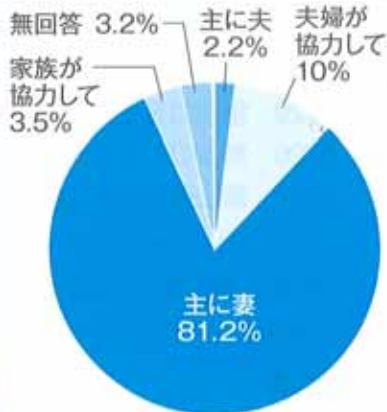
市民アンケート^(※)において「ふだん家事や育児をしているのはだれですか」と聞いたところ、いずれも「主に妻」が最も多く、「主に夫」はどれも4%未満という割合でした。家事や育児は主に妻が担っているのが現状です。

(※)平成27年丸亀市男女共同参画に関する市民アンケート

ふだん家事や育児をしているのはだれですか

(回答者数：883人)

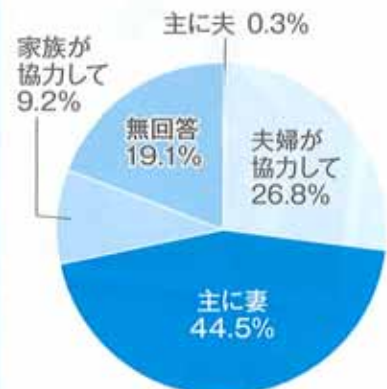
食事のしたく



掃除



子どもの世話



パパが家事・育児をすると、こんないいことがあります

メリット

① 視野が広がり、仕事にも好影響

「夕食を作りながらお風呂にお湯を入れていると、子どもが泣き出して…」と大変。子どもは待ってくれません。

それでも、働きながら家事・育児をしていると、限られた時間の中で結果を出そうとするため、自然と段取り力、コミュニケーション力、マネジメント力などがUPします。



体験談

やったから分かった。やってよかった。

- 多くの家事をしているであろう、**家庭を持つ女性職員に対する見方も変わった**し、自分自身も早く帰宅するよう心がけるようになった。そのためには、仕事を効率よく進める必要があるため、**業務の効率も以前よりよくなった**という気がしている。
- 育休復帰後は、家事から身につけた効率性の高い仕事方法で**残業はほとんどなかった**。さらに主夫の観点から、ビジネスに**多角的に取りくむ**ことができ、**家族と過ごして得た気づきや経験を活かす**ことができています。

出典：内閣府「パパの育児休業体験記」より一部抜粋

メリット

② ママの負担軽減で、夫婦円満に

子どもが生まれると女性は子育てに集中するため、体力的にも精神的にも不安定になりがちです。しかし、家事や育児に協力的な夫の場合、妻の心身は満たされ、その後も夫婦円満に過ごすことができます。また夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生率が上がるというデータもあります。



子どもがいる夫婦の夫の休日の家事・育児時間別にみた、この13年間の第2子以降の出生の状況



出典：内閣府「男性の暮らし方・意識の変革に向けた課題と方策」

パパのつぶやき



家事・育児をするとき
こんな工夫をしています！

「言わなくても分かるだろう」を
「口に出して伝える」ように。
すると妻とのコミュニケーションが
うまくとれるようになり、
イライラも少なくなった。
会話をすることが大切ですね。

子どもが増えると、
家事も増える!!
効率的に家事をこなすために
掃除ロボットや食器洗浄機を購入したが、
残念ながら
妻には不評だった。

妻より
第三者に言われたほうが
その気になることも。
ママ友とその家族が集まったとき、
他のパパがこんなことをしていると聞くと
「僕もやらんといかん」と思った。
パパ友同士もっと情報交換できる
場もあったらいいな。

できるかどうか
不安に思いつつ、
妻のやり方を真似てやってみたとき、
「それダメ」と言われると
やる気がなくなる。
一度できると自信になるので、
温かく見守ってほしい。

ママのつぶやき



パパにしてもらうために
こんな工夫をしています！

30分の買い物でも
わざと1時間くらい外出して、
夫がせざるを得ない状況に。
今では一人でもできると分かり、
夫も進んでやってくれます。

パパ流のやり方も認める！
文句を言わない！

「ありがとう+言いたいこと」
まず感謝の気持ちを伝えてから、
言いたいこと(直してほしいこと)を
伝えるようにしている。

「YOUメッセージ」ではなく、
「Iメッセージ」で。
「(あなたは)何度言ったら分かるの!？」
→「(私は)覚えてくれたら嬉しいな」

～NPO法人さぬきっずコムシアター
「コムコムひろば」参加者より～

家事・育児はみんな

●何でもこなせるパパはカッコイイ

今は共働き世帯が多く、家事や育児も夫婦で協力することが求められています。家族が喜んでくれるのはもちろん、前述のようにいいことがいっぱいあります。

●パパ友を作ろう

家事や育児について、「自分はいまできない」と悩むパパも増えています。子どもや妻との関わりを共有したり、情報交換したりする同じパパの存在は大きいものです。職場や地域、子どもの学校等でパパ友を作ってみてはいかがでしょうか。

とっとコム

育児を楽しむパパの集まりです。

「子どもたちや家族に対して一体何ができるかな？」とパパたちならではのアイデアを真剣に出し合い、ともに子育てを楽しんでいます。

※参加メンバーを随時募集中です!!

TEL: 25-0691

HP「NPO法人さぬきっずコムシアター」
または、facebook「とっとコム」参照



きっずコム夏フェスの花火の様子

受け身にならず、声を上げて…

ガールスカウト香川県連盟第10団
たなべたまき
 リーダー 田邊玉喜さん



田邊さん

ガールスカウトのリーダーとして、子どもたちとさまざまな活動をされている田邊さんにお話を伺いました。

●ガールスカウトの活動

第10団の会員数は約25名(5歳から大人まで所属)。丸亀市生涯学習センターを拠点にクラフト、キャンプ、募金活動やお城まつり等に参加し活動している。

ガールスカウトの始まりは、1909年イギリスでボーイスカウトの創始者の妻や妹が「私たちでも出来る」と声を上げたこと。そこから少女と女性が力をつけることの大切さを広め、共感した世界の女性に支持され、現在の組織となっている。

活動では、「自然とともに」「自己開発」「人とのまじわり」の3つを大切に、自分たちでやりたいことを見つけ、自分で考えて実行する力を身につけていく。初めは、親の近くから離れないでいた子どもたちがだんだんと成長し、自分の意見を主張したり、下の子の面倒を見てくれたりするようになることにやりがいを感じる。

●少女に対する暴力をなくすキャンペーン

現在、少女と若い女性自身に暴力から身を守り、助けを求め、差別や偏見に立ち向かっていく方法を身につけてもらう活動を進めている。やはり幼い頃からの教育が大切だと思う。私たちリーダーを中心に、子どもたちが普段の活動の中で自分事として捉えられるよう工夫しながら、丁寧に話していきたい。



●私たちにできること

女性に対する暴力について理解するのは難しいが、まずはこんなことが起きていると知ることからである。そして何が出来るか考える。「女だからできない」のではなく、「女でもできる」対策もある。大切なのは、声を上げ、受身にならないこと。被害者になったとしても、だれかに言えること。親に言えなくても友だちでもいい。そして将来は、支援する側になってほしい。

Information

「第3次男女共同参画プランまるがめ」ができました

今年度から5年間、プランに基づき、市民のみなさんとともに事業を行っていきます。特に「男女のワーク・ライフ・バランスの推進」と「配偶者などからの暴力の根絶」の2つを重点目標として取り組みます。

*男女共同参画に関する出前講座、DVD上映等も受付中です。
 ご希望の方はご連絡ください。



(丸亀商工会議所女性会の出前講座の様子)

男女が輝く地域づくり講演会

- 日時 平成30年2月17日(出) 13:30~16:00
- 場所 綾歌総合文化会館アイレックス 大ホール
- 内容
 1. 男女共同参画川柳コンテスト表彰式
 2. パバ芸人による子育てトークショー
 3. 企業によるワーク・ライフ・バランスに関する事例発表
- 主催 丸亀市、香川県
- 問い合わせ先 丸亀市人権課男女共同参画室 TEL24-8823

編集後記

3年ぶりに開催された飯野町民体育祭に参加した。カいっぱい競技に取り組むみなさんの表情とこぼれる笑顔、それに選手を懸命に応援する姿を見ていると、スポーツがなくなぐ地域の輪を感じた。世代が違っても、地域の人同士でも知らないことが多い昨今。さまざまな年代の人が入り混じって行うコミュニティ行事は、近くにいる人の新しい一面を発見する機会でもある。(T)